

認しています。

陽性者の受診について、病院のソーシャルワーカーと直接連絡を取ったケースはありません。匿名検査のため病院への情報提供も難しいです。

状況により、保健師同行の要望等があれば、対応できるようにしたいと思っています。

⑤陽性だった方へのパートナーへの検査推奨はどのようにしていますか？

「パートナーは検査していますか？」と聞くようにしています。告知をどのようにしていくかについても話題になりますが、本人がどのようにしたいのかに合わせて返答するようにしています。相手が不特定だと告知はなかなか難しいため、告知しないという人もいます。特定されている場合は告知することを選択することが多いです。家族がいる方に関しても本人の意思を尊重しながら、どのようにするのか相談しています。



⑥外国人の検査も実施されていますか？

対応しています。平成30年度、外国籍2名の受検がありました。日本語でのコミュニケーションが可能な方であったため対応に困らなかったです。英訳した説明用紙も準備されていますが、カウンセリングなど言葉での聞き取りや対応には課題があると思っています。

⑦オリンピック開催に向けての対応策はありますか？

麻疹、風疹、O-157、MARS への対策には厚労省からの通知もあり注意喚起に取り組んでいます。抗体検査普及啓発には継続して取り組んでいます。ポスター、Facebook、API-Net などの活用も有効かと思っています。

⑧医療機関、ソーシャルワーカーに対して求めることがあれば教えてください。

受診につながるようソーシャルワーカーともつながることでサポートしてもらえるのは、保健所としても安心です。個人情報の共有には課題がありますが、アクセスしやすい関係作りができればよいと思います。

⑨今後の HIV/AIDS 対策について課題に感じている事はどんなことでしょうか？

メディアの活用は良いと思いますが、興味関心がないと気にも留めないというのが現状です。そのため、季節によってイベントへの参加、例えば冬季であれば郡山市駅前ビッグツリーページのオープニングに参加し、広告をポケットティッシュに入れて配布したりしています。他には、思春期保健事業で中学・高

校生を対象とした授業、性感染症予防事業による高等学校卒業後の方を対象とした講演などを行っています。

講演後のアンケート結果には、検査を受けること自体が怖いとの声もありますが、エイズと HIV の違いについてわかった、知ることができて良かったなどの感想を頂いています。今後も取り組んでいきたいと思っています。

❁訪問を終えて・・・

HIV やエイズについてはインターネット等から様々な情報が取得できる時代です。受検者は、それらの情報を見聞きし不安がピークになっている状況で検査に来ています。そのような時にいろいろ説明を聞いてもなかなか理解できない可能性もあります。検査結果の待ち時間では更に緊張が高まる時間であり、45分の待ち時間も長く感じるかもしれません。



今回保健所を訪問して直接検査担当の方にお話をうかがったことで、受検者の現状や、保健所の取り組みなどについてよく理解することができました。また検査の場面ではプライバシーに十分配慮し、カウンセリングで不安を解消したり受検者の些細な状態の変化を確認したりしながら対応されていることがわかりました。HIV 陽性者やその不安を抱えた人にとってソーシャルワーカーが頼られる存在になるためにも、保健所の保健師さんと連携を図り、自分たちの役割を發揮できるように意識を高めていかなければいけないと思います。

エイズとソーシャルワーク委員会 飛田・石川・根本



～第2回薬害被害者支援担当者会議、 東北ブロック HIV/AIDS 心理・福祉連絡会議 に参加して～

平成30年10月30日開催の会議に参加しました。

現在、血友病や HIV/AIDS については治療法が確立していますが、疾患の特性として、社会、人間心理、偏見などが密接にかかわっており、他職種、他機関と連携し支援していく必要があると学びました。

また、チーム医療のなかでソーシャルワーカーは、その方がよりよく生活できるよう活用できる社会資源についての知識を持ちながら、個別的に活用するメリット・デメリットを整理し、一緒に考えていくことが重要であると学び、制度活用により、疾患が職場等に伝わってしまう可能性もあることを理解し、その方の